

超映画術

vol. 1

これまでにないロング・トーク・ライブ 第1弾は「台風クラブ」幻の作家が登場！

「台風クラブ 4K レストア版」などの配給、書籍「作家主義 ロウ・イエ」などの出版。アジア・日本のコンテンツビジネスを行うA PEOPLE（エーピー・ブル）が新たなトークイベント・シリーズを立ち上げる。タイトルは「超映画術」。これまであつた単なる上映後のトーク・イベントにとどまらず、90分のロング・トークを展開。初の開催となる第1弾の出演者は映画「台風クラブ」の脚本家・加藤祐司。1985年の公開以来、全くメディアに登場せず、「台風クラブ」についてひとことも語っていない加藤が90分のトークに挑む。いったい何が語られるのか？（来場できない方には、1週間後より、トーク部分のみのアーカイブ販売を行う）

脚本家

加藤祐司

1985年、東京国際映画祭でヤングシネマグランプリを受賞した「台風クラブ」。審査員のベルナルド・ベルトリッキが激賞。後に「台風クラブ」は相米慎二監督のマスターピースとなった。その脚本を書いたのが加藤祐司。

1957年生まれ。1983年、ディレクターズ・カンパニーのシナリオ公募コンクールで準入選したのが本作のシナリオだった。加藤は当時、東京藝術大学の学生であった。以降に手がけた映画脚本は「教祖誕生」(1992)1作のみ。以降、相米慎二についてのインタビューを受けることもなく、メディアには登場していない。果たして何を語るのか。

課題映画

「超映画術」では“課題映画”を事前に発表する。加藤祐司が「台風クラブ」を書くに影響を受けた映画。脚本家として影響を受けた作品。今回は2本。1本目はフランソワ・トリュフォー監督の「隣の女」(1981)。2本目はガス・ヴァン・サント監督の「エレファント」(2003)。この2本について語ります。観ていなくても楽しめますが、観て来ていただければより深くトークを楽しめるでしょう。すでに90分で語りつくせないことが判明しているので、加藤祐司による「超映画術」後編を柏・キネマ旬報シアターにて9月開催が決定している。



相米慎二監督

写真／星川洋助（加藤祐司） 写真／佐野 篤（相米慎二）
©ディレクターズ・カンパニー



超映画術 vol.1 前編 加藤祐司「台風クラブ」

19:00「台風クラブ 4Kレストア版」上映
7月25日(木) 上映後、トークライブ「超映画術」

出演：加藤祐司 聞き手：小林淳一（A PEOPLE編集長）

会場：ユーロスペース（渋谷） 料金：1,800円均一（税込）

チケットは7月22日（月）深夜0:00よりユーロスペース公式HPにて、OPEN時よりユーロスペース劇場窓口にて販売。

★アーカイブ配信（トークのみ）は8月1日（木）より発売／料金：800円
<https://apeople.theshop.jp/items/87943079>

超映画術 vol.1 後編 加藤祐司「台風クラブ」

9月7日(土)、キネマ旬報シアター（柏）にて開催決定！

詳細は劇場HP、
A PEOPLEのHPまで